

## 第4回千葉市新基本計画審議会 議事要旨

1 日 時 令和4年2月15日（火）13時30分～15時00分

2 場 所 オークラ千葉ホテル 3階 「エリーゼ」  
千葉市中央区中央港1-13-3

3 参加者 《委員》33名（五十音順）

秋元 裕子委員、浅野 幸子委員、石河 勲委員、市田 誠委員、市橋 民子委員、  
岩崎 久美子委員、梅澤 孝之委員、江波戸 正子委員、大森 康雄委員、小川 順子委員、  
柿沼 靖委員、加藤 康幸委員、鏑木 憲子委員、菊地 端夫委員、倉阪 秀史委員、  
斉藤 浩司委員、貞広 斎子委員、島田 利美委員、鈴木 雅之委員、仙波 慶子委員、  
高梨 園子委員、高山 功一委員、轟 朝幸委員、長岡 正明委員、中島 陽一委員、  
成田 智子委員、林 暁甫委員、細田 美和子委員、松永 哲也委員、森川 博之委員、  
若狭 健委員、和田 勝紀委員、渡邊 真由委員

（欠席者 秋田 典子委員、近藤 利砂委員、斎藤 博明委員、下河原 忠道委員、  
添田 智恵委員、角田 愛子委員、渡部 茂樹委員）

《事務局》26名

神谷市長、峯村総務局長、山田総務局次長、那須危機管理監、神崎総合政策局長、  
米満財政局長、稲生市民局長、山元保健福祉局長、大野こども未来局長、  
松戸環境局長、加瀬経済農政局長、青柳都市局長、斉藤建設局長、  
藤代中央区長、折原花見川区長、丸山稲毛副区長、齊木若葉区長、小池緑区長、  
曾我辺美浜区長、中村消防長、野村水道局長、寺井病院事業管理者、磯野教育長、  
宮本教育次長、堺総合政策部長、濤岡政策企画課長

### 4 議 題

- (1) 千葉市新基本計画審議会答申（案）について
- (2) その他

### 5 議事概要

- (1) 千葉市新基本計画審議会答申（案）について
  - ・第1部会及び第2部会の審議の概要について、轟会長及び岩崎委員より説明を行った。
  - ・千葉市基本計画（原案）に対する答申（案）について、事務局より説明を行った。
- (2) その他
  - ・議事録の確定方法、答申の手交について、事務局より説明を行った。

## 6 会議経過

～以下、議事要旨～

### 議題（1）千葉市新基本計画審議会答申（案）について

#### ・第1部会の審議の概要について

轟会長

第1部会では、18名の委員によりまちづくりの総合8分野のうち、「環境・自然」、「安全・安心」、「都市・交通」、「地域経済」の4分野について審議をして参りました。委員の皆さんからいただいた意見について、主なものをご紹介します。

「脱炭素社会の実現に向け、市民だけではなく、民間企業に向けた取組みの必要性。災害対策において、多様性に目を向けた取組みの必要性。まちの発展に進展するテクノロジーを活用する必要性。地域経済において、千葉市が東京圏の主要都市、あるいは千葉県を中心としての役割を果たす必要性。」

今申し上げたのは主なものですが、専門的、あるいは市民目線から、具体的な取組みに関するご意見を多数いただきました。大変活発に議論をいただき、非常に有意義な会議であったと感じています。

これらの意見をもとに、部会における審議の集大成として第1部会の答申を取りまとめましたので、この答申をベースに、基本計画原案全体に対する答申を議論いただければと思います。

若干、感想的なことを申し上げますと、コロナ禍など社会が大きく変わろうとしている中で、脱炭素へ向けた取組みも急務であるなど、先をどのように見通すかは非常に難しいという意見がたくさんありました。そういう中ですが、夢のある計画にならないかと前向きな意見を多数いただいたと思っています。そういったことを根底において、この計画を策定していただきたいと思った次第です。

#### ・第2部会の審議の概要について

岩崎委員

第2部会では、22名の委員によりまちづくりの総合8分野のうち、「健康・福祉」、「子ども・教育」、「地域社会」、「文化・スポーツ」の4分野について審議して参りました。

委員からのご意見をいくつかご紹介したいと思います。

「高齢者の経験やノウハウを伝える機会、本人の生きがいに繋がる学習機会の必要性。子どもたちの個性を尊重し、自由な発想で挑戦できる教育の実施。多様な主体が集まり、交流できる場所の必要性。文化芸術の持つ創造性や想像性をまちづくりの幅広い分野で活用すること。」

以上のような専門的、あるいは市民目線からの貴重なご意見を大変多くいただきました。これらのご意見をもとに、第1部会と同様に第2部会の答申を取りまとめましたので、この答申をベースに、基本計画原案全体に対する答申を今後議論いただければと思います。

私の方からも最後に、第2部会を代表して感想を述べさせていただきます。当第2部会では、委員の方々がそれぞれの立場から非常に活発にご意見を述べてくださいました。いずれのご意見も傾聴に値する貴重なものでした。また、そのようなご意見に千葉市の担当者が誠実にお答えくださり、有意義な会話の場であったと思います。

ご意見を伺いながら私個人としても、これからの社会に非常に重要な、公正性、多様性、包摂性という観点から、多角的なものの見方を多く学ばせていただきました。

今後は、第2部会における委員の方々のご意見が、千葉市の市民の方々には有益な施

策へと反映されることを願っています。

・千葉市基本計画（原案）に対する答申（案）について、事務局より説明を行った。

<意見交換>

岩崎委員

P.4「4 まちづくりの基本方針について、以下の観点から、年齢・性別・国籍・障害の有無などに関わらず～」とP.12「9（2）ウ（ア）性別や障害の有無など、属性に関わらず～」の表現について、整合性という意味でご一考いただければ幸いです。

濤岡政策企画課長

総論の部分はインクルーシブの文脈から、各論の部分は雇用の文脈から記載しているところですが、記述の統一が必要だと思います。ご意見を踏まえ、表現を統一させていただきたいと思います。

菊池委員

二点、追加できるかご検討いただければと思います。

一点目は、コロナ禍という先が見えない中で、全体会そして部会の方で色々な議論をさせていただきました。その中で、委員の方々が一緒になって未来の展望を語り、前向きな気持ちとなった、委員の間で共有したエネルギーのようなものを、前文のところに少し反映できないかと思いました。理知的な形で文章を残すこと以外に、自分事として地域の課題を考え、関わっていくというエモーショナルな部分が大事だと思っています。審議会の委員の間に共有されていた、未来を語ることによって元気になる、エネルギーに満ちているという前向きな気持ち、そういった感情のような部分が少し伝わるように、前文のところに記載が可能であれば検討いただきたいと思います。

二点目は、前回の答申が11年前の2月14日ですが、この1か月後に東日本大震災が起これ、その後に現計画がつけられています。その中で、計画の方にも東日本大震災に触れた記載が見られますが、答申にも帰宅困難者について記述がなされているなど、非常に先見の明があったと思います。これからパブリックコメント手続を行い、計画をつくっていくプロセスの中で、社会が大きく変動するような自然災害が起こるかもしれません。そのような対応に関する記述を、少し加えられないかと思いました。

堺総合政策部長

最初の点ですが、ご指摘のとおり、非常に活発な議論の中で、委員同士の議論が非常に深まったと思っています。P.1の下から二つ目の段落辺りに記載ができるか、修正・加筆する方向で調整させていただきたいと思います。

もう一点、今の計画についてはご指摘のとおり、審議会の答申後に震災が起き、原案からパブコメの案にする時に、災害に係る記述を大幅に強化したという経緯があります。答申そのものに記載するかは議論いただきたいと思います。必要ということであれば、前文最後の段落に「その後の社会変化にも柔軟に対応しつつ、その案をまとめられたい」というような形で記載することは可能と考えています。なお、記述の有無に関わらず、柔軟に状況を見ながら計画を修正していくことは、この場で申し上げたいと思います。

轟会長

ご指摘のとおり、計画は様々な状況変化に柔軟に対応していかなければならず、最近ではアジャイルという言い方もしています。P.5には、「5 将来の変化にも対応できる計画となるよう工夫すること」と記載があります。特に、「(2) 将来を見通すことが困難になっていることを踏まえ、中長期的な視点とともに、変化に応じた柔軟な対応～」とも記載されており、こちらで受けているということで良いでしょうか。

(一同異議なし)

倉阪委員

P.1の一番初めの段落について、「地球温暖化の進行」を社会の持続可能性を揺るがしかねない状況の一つの例として、例えば、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の

後に入れていただけないでしょうか。

堺総合政策部長

風水害等という記載があるため、この辺りに追加するよう対応させていただきたいと思えます。

松永委員

二点申し上げます。

一点目は、P.7の3(1)にレジリエンスという言葉を使っていますが、部会の方でなるべくわかりやすい表現にということで、他の単語にできないか検討いただいたと思えます。事務局に確認ですが、結局これが一番適切であり、これしかなかったということでしょうか。

二点目は、P.12の9(2)ア(ア)の産業用地の活用について、千葉市は産業用地が枯渇しているため、まず産業用地を確保する必要があると思えます。そこで例えば、「市内における産業用地の状況を踏まえ、産業用地の確保、民有地を含めた産業用地の活用」と、確保と民有地の活用を二つに分けて記載させていただきたいと思えます。

濤岡政策企画課長

レジリエンスは専門的な用語ではありますが、最近の状況も踏まえ、代替する言葉がない、なかなか見つからないということで、総論の部分に脚注を付けることにより、そこで分かりやすい形で掲載をしているところです。

もう一点、産業用地の部分について、ご指摘のとおり産業用地の確保という要素も必要になってくると思えます。ご意見を踏まえ、答申を修正させていただきたいと思えます。

岩崎委員

P.8の4(2)イ(イ)、(3)イ(ア)の「高齢化の一層の進展」という表現について、進展という言葉が良いか、最終的に確認していただいたほうがよいと思えます。理由は、「一層の高齢化を踏まえ」などのような表現で単純に表現できること、また、進展という言葉の持つ価値、ポジティブなイメージが文書に馴染んでいるかということからです。これらの表現についてご検討いただければと思えます。

濤岡政策企画課長

趣旨としては、高齢化が更に進んでいくというニュアンスで記載をしていましたが、ご指摘のとおり、一層の高齢化という形でも十分意味は通じることや、進展という言葉がニュアンス的にどうかという問題もありますので、ご意見を踏まえて修正をしたいと考えています。

菊池委員

P.9の5(1)イ(ア)の民間保育園、公立保育所について、保育園と保育所を使い分けています。名称上の違いとして使い分けているのか、あるいは認可外も含めているという意味で民間の場合は保育園としているのか、この使い分けで問題ないかについて、確認したほうが良いと思えます。

大森委員

児童福祉法上の正式な名称は、民間であろうと公立であろうと保育所です。ただ、全国でもこういう使い分けをしている自治体が多く、千葉市の場合は、公立を保育所、民間を保育園と呼んでいます。

濤岡政策企画課長

大森委員が仰るように、千葉市の場合、民間は保育園、公立は保育所という形で使い分けており、このような表記にしています。一般的に、民間も保育所で問題ないということであれば、法律の用語に合わせても良いでしょうか。

大森委員

例えば、市のホームページに掲載されている保育所や保育園の一覧の中でも園の実名を使っているため、民間であれば何々保育園という名前で見つけられています。一般的に保護者の方々は、それを見て保育施設を選びますので、保育所にしてしまうと逆に混乱が生じてしまう可能性があるのではと思えます。

濤岡政策企画課長

一般的な千葉市の呼び名ということで、分かりやすさの観点から、民間保育園と公

立保育所という形で、使い分けをさせていただきたいと思います。

## 議題（２）その他

・議事録の確定方法、答申の手交について、事務局より説明を行った。

特に意見なし。

### <副会長挨拶>

長岡副会長

審議会に関わらせていただき、事務局から提案された基本計画案について、言葉一つひとつを丁寧に読み取りながら、皆さんが熱心に審議されたということに、非常に私自身も感心し、素敵だったと思っています。

今後、市の基本計画として決まっていくにあたり、この審議会が情熱と熱意を持って審議したことが、市民の皆さんに広く伝わっていくように、市の方をお願いしたいと思っています。

また、これが絵に描いた餅にならないように、一生懸命市民に知らせて、共に素敵な千葉市をつくり上げていくということになればと強く感じました。

本当に皆さんありがとうございました。

### <会長挨拶>

轟会長

私からも御礼を申し上げたいと思います。

本当に貴重なご意見を多数いただきました。多様で広範に渡り、意義深く、示唆に富んだものが多数あったと思っています。私自身も大変勉強になりました。

また、事務局は原案の作成、調整等大変だったと思います。そういったものをしっかりとつくり、さらに我々からの意見に真摯にご対応いただいたことに感謝申し上げます。

今日、答申案を確定させていただいたわけですが、千葉市にとって非常に重要な計画に対する答申をまとめられたことは、皆さんのご協力の賜物であると思っています。感謝申し上げます。

更に、すでにこの答申を受けた対応案も示していただいております、今後の安心感に繋がるところです。我々が述べたことを、しっかり受け止めていただいていると、こういう姿勢も非常によく伝わりました。我々も、事務局がそのような思いで対応いただいているので、それぞれが熱い思いで語ることはできたのではないかと考えています。

先ほどありましたが、今後はパブコメや議会などの諸手続きを踏まえて確定となっていくわけですが、その段階においても、必要な修正というのは適宜お願いしたいと思っています。そういったものを踏まえて、良い計画にさせていただきたいと思っています。

そして実施計画も、施策展開に直接繋がるものだと思いますので、しっかりとした施策展開を計画に盛り込んでいただきたいと思います。先ほど副会長からもありましたが、絵に描いた餅ではいけないということです。しっかり施策を実行に移し、成果の見えるような形にさせていただきたいと、私も願っているところです。

それには市の方々のみならず、市民、企業、皆さんの協力のもとで、やっていかなければならないと思います。先ほど副会長からもありましたが、この計画を分かりやすく市民にご紹介いただき、そして、これが我々の計画である、自分事であるということをしっかり理解していただき、一緒に手を携えて、未来の千葉市、素敵な明るい未来をつくっていただきたいと思います。

我々も関わったということで、今後も協力を惜しまずに行っていきたいと私自身思っ

ていますので、皆さんもご協力をお願いしたいと思います。

皆さんのご協力のもと、この重要な答申をまとめられたことを感謝申し上げます。  
ありがとうございました。

## <市長挨拶>

神谷市長

千葉市長の神谷俊一でございます。

答申案の取りまとめに当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

委員の皆様には、大変お忙しいところ、また、新型コロナウイルス感染症による影響がある中、約半年間に及ぶ全10回もの会議におきまして、極めて熱量の高い活発な議論を重ねていただきました。そして今日、答申案を取りまとめいただいたことに関しまして、心から厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

諮問の際に私からもお願いさせていただきましたが、今回の基本計画につきましては、コロナ禍、そして構造的な要因によりまして、今後現実なものとなっていく急速な社会変化をいかに捉えて、これからの十年間どのようにまちづくりを進めていくのか、その基本となるものであります。

計画原案の作成に当たりましては、様々な市民参加等を通じて得られた多くの意見を取り入れて参りましたが、この審議会におきまして、市民の視点から、また、専門的見地から、例えば、「市民に分かりやすく伝え、行動すればまちが変わると認識していただけるよう、自分事として捉えていただくこと」、「千葉市の特性や、それを踏まえた戦略的視点について、市民の多様性や市民生活を意識したものとするべきであるということ」、「各区の魅力や特色を活かしたまちづくりの充実に取り組むこと」など、まちづくりの方向性や考え方に関するご意見を加えていただきました。

また、個別分野においても、「脱炭素社会の実現に向けた市民や企業の意識の醸成、投資の促進」、「子供の個性や自由な発想を養い、発揮するための一層の取組み」、「あらゆる分野で、多様性を念頭に置いた取組みを進めていくこと」、「テクノロジーをまちづくりに積極的に活用していく視点」など、委員の皆様の経験と専門的な知見に基づく、具体的にご意見をいただくことができました。

みんなで共有し、みんなで取り組む、千葉市ならではの計画として磨き上げるための気付き、発想、多彩な意見をいただいたと受け止めています。心より感謝を申し上げたいと思います。

答申につきましては、後日いただくことになっていますが、答申に至るまでに委員の皆様からいただいた貴重なご意見、ご提言につきましても、その趣旨を十分に踏まえながら、出来る限り計画案に盛り込んでいきたいと思っています。また、この計画を市民みんなで共有する計画として、策定していきたいと考えています。

結びになりますが、轟会長、長岡副会長をはじめといたしまして、委員の皆様方におかれましては、多面的なご審議をいただきました。改めて感謝を申し上げたいと思います。

計画は実行して初めて意味を成すものであり、その計画の実行を検証する中で、さらには見えない未来に繋いでいけるものだと痛感しています。市民の皆様と考え方を共有したうえで、検証しながら前に進めていきたいと考えています。

令和5年度から本計画の実施が始まりますが、今回のご議論にご参加いただいた皆様方には、計画を進めるにあたりまして、是非ともお力添えをいただきたいと思っています。結びに当たりまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

—閉会—